

科学館の



108

FM TOWNS

 資料登録番号
2019-9

FM TOWNSは、1989年に富士通株式会社が発表したパーソナルコンピュータです。日本で初めて、CD-ROMドライブを標準搭載したことで知られています。また国内のパソコンではいち早く、Intel 80386と呼ばれる32bitのCPUを搭載していました。

当時としては強力なグラフィックやオーディオ機能を備え、写真や音楽などのマルチメディアに対応することが可能でした。

発売時期やスペックにより多くの機種がありますが、こちらは1989年春に発売された初代(モデルS2)で、俗に文教モデルと呼ばれ学校など教育機関向けに販売されていたものです。CD-ROMを活用して写真や音をふんだんに使ったソフトウェアは、マルチメディア教育という指向性に合致して、教育現場でも多く活用されました。

現在では、パソコンにCD-ROMドライブが付いているのが当たり前、むしろ最新のノートパソコンでは、CD-ROMドライブがない方が普通になってきました。しかし当時のパソコンにハードディスクはまだあまり普及しておらず、記録装置といえばフロッピーディスクが標準でした。1枚のCD-ROMにフロッピーディスク540枚分の情報が収録できることで、容量の大きい絵や音も収録することができました。

FM TOWNSは、日本独自のアーキテクチャPCの最後となる機種でもあります。

1970年代後半から、家庭用のコンピュータが登場し始めました。1980年代は家電メーカー各社がこぞって、工夫を凝らした特色のあるパソコンを発売するようになりました。しかし当時のパソコンは、メーカーが違うとソフトウェアの互換性がありませんでした。世界的に標準となっていたPC/AT互換機は日本語に対応していなかったことから、日本語表示させるために漢字ROMなどを搭載して、各メーカーが独自仕様のアーキテクチャ(設計思想)で組み立てていたためです。

しかし1990年に日本語表示を可能にするOSであるDOS/Vが登場すると、日本でもPC/AT互換機が普及し始めます。

そして1995年、Windows 95が発売されると、ほとんどのメーカーはPC/AT互換機に転換し、日本独自のアーキテクチャPCは終わりを迎えました。



写真 FM TOWNS

江越 航(科学館学芸員)